

令和5年度 香川県立農業大学校 学校評価

評価基準 A：十分達成できている、B：おおむね達成できている、C：どちらかという達成できていない、D：ほとんど達成できていない

重点目標	評価項目	具体的方策・評価指標等	経過・実績	評価	次年度の課題と改善策	外部評価委員の意見
I 意欲ある学生の確保	1 学生・研修生の応募者確保	<p>●具体的方策</p> <p>1 高校の進路指導教諭及び高校生への積極的な働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい学校案内・刷新した募集要項等の作成</li> <li>・高校訪問の実施と進路指導担当者を対象とした学校説明会の開催</li> <li>・高校進路ガイダンスへの積極的な出席</li> <li>・体験型オープンキャンパスの複数回実施と参加誘導</li> <li>・公開講座の実施による開かれた農大のPR</li> </ul> <p>2 情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの充実と学校の出来事などの積極的な情報発信</li> <li>・SNSを活用した情報発信の充実</li> <li>・県広報誌や広報媒体を活用した学生・研修生募集記事の掲載</li> </ul> <p>3 農業大学校のPRと研修等の応募方法のオンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座の実施による開かれた農大のPR</li> <li>・各種研修、オープンキャンパス等のオンライン申し込みの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成科、研修科両科共通の刷新した学校案内を3,000部作成し、募集要項とともに県内高校、市町、JA等に配布した。</li> <li>・農業高校5校と林業に興味がありそうな高校3校を訪問し、特に令和6年度から拡充する林業・造園緑化コースの教育内容等を説明し学生募集を行った。</li> <li>・県内4校で実施された進路ガイダンス（延べ7回）に参加し、農大の特徴や卒業後の進路等について情報提供した。</li> <li>・体験型オープンキャンパスを7回（延べ参加者95名、うち学生57名）と受験者向け説明会を1回（参加者32名うち受験年齢到達者19名）開催した。体験型オープンキャンパスは、専攻コースごとに実施し、複数回参加することで、受験予定者が専攻コース選択の機会を提供できた。</li> <li>・8月4日にオープンキャンパスを兼ねた公開講座を初めて開催し、学生、研修生、学校関係者以外に13名（うち学生3名）の参加があり、開かれた農大をPRした。</li> <li>・農大内に情報発信委員会を新たに立ち上げ、ホームページの充実や積極的な情報発信に努めた。農大の出来事等について年間計画を作成し、定期的な情報発信を進め、農大のできごとについては、月2回超のペースで投稿した。</li> <li>・10月からは、SNSを活用した情報発信し、農大からの情報発信だけでなく学生からの投稿を促した。</li> <li>・学生・研修生の募集について、農大ホームページや県・市町・JA広報誌への掲載、公共施設（体育館等）等へのポスター掲示を行った。</li> <li>・学校行事等について報道提供し、マスコミを通じた広報を行った。</li> <li>・8月4日にオープンキャンパスを兼ねた公開講座を初めて開催し、学生、研修生、学校関係者以外に13名（うち学生3名）の参加があり、開かれた農大をPRした。</li> <li>・オープンキャンパスのオンライン申し込みを可能とし、95名のうち15件がオンラインで申し込んだ。</li> </ul>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き体験型のオープンキャンパスの複数回実施を継続して行うが、令和5年度の実施状況を踏まえ、実施時期や回数を見直す。</li> <li>・高校の夏休み期間にオープンキャンパスを充実させ、入学試験の実施時期の見直しと合わせて検討する。</li> <li>・農業高校以外の高校生にも職業の選択肢として「農業」があることを、関係機関との連携や学校連携等を通じてより積極的にPRする。</li> <li>・養成科と研修科両科合同でのオープンキャンパスの実施を検討する。</li> <li>・情報発信委員会でさらにホームページの充実や積極的な情報発信の方法等の協議を進め、充実した情報発信に努める。</li> <li>・さらに学生の投稿を促すため、年度始めから在校生、新入生への働きかけを行い、積極的な投稿に繋げていく。</li> <li>・農業者に限らず、一般県民にも広く関心のある内容での公開講座の実施を検討し、農業大学校を知ってもらう機会を作る。</li> <li>・コロナで休止していた農大ふれあい市を復活させ、近隣の学生やその保護者</li> </ul>	

重点目標	評価項目	具体的方策・評価指標等	経過・実績	評価	次年度の課題と改善策	外部評価委員の意見																																										
		<p>4 農業に興味がある社会人への積極的な働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業初心者向け農業基礎講座の開催と準備研修、実践研修への誘導</li> <li>農大見学会（研修科オープンキャンパス）の複数回実施と参加の働きかけ</li> <li>受講申込みのオンライン化</li> </ul> <p>●評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパス参加者数</li> <li>担い手養成科応募者数</li> <li>技術研修科応募者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業基礎講座@農大を三豊市と三木町の二カ所で開催した。延べ34名の参加あった。今年度から野菜だけでなく、花きや果樹の講義も加え、ニーズにあった内容に充実させた。</li> <li>研修科オープンキャンパスとして農大見学会を3回実施し、延べ28名が参加した。このうち4名が農業基礎講座を受講し、1名が農業実践研修、3名が農業準備研修に応募した。</li> <li>受講申し込みをオンライン化し、申込みの約2割をオンラインで受け付けた。</li> </ul> <p>オープンキャンパス参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担い手養成科 学生57人、父兄等38人（合計95人）</li> <li>技術研修科 28人</li> </ul> <p>担い手養成科応募状況</p> <table border="1" data-bbox="964 1031 1679 1178"> <thead> <tr> <th></th> <th>応募者数</th> <th>合格者数</th> <th>入学予定者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推薦入試</td> <td>27人</td> <td>27人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>一般入試(前・後期)</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>33人</td> <td>33人</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table> <p>技術研修科応募状況</p> <table border="1" data-bbox="964 1255 1679 1520"> <thead> <tr> <th></th> <th>応募者数</th> <th>合格者数</th> <th>入校(予定)者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">5年度</td> <td>就農実践研修</td> <td>26人</td> <td>16人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>就農準備研修Ⅰ期</td> <td>21人</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>就農準備研修Ⅱ期</td> <td>12人</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6年度</td> <td>就農実践研修</td> <td>10人</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>就農準備研修Ⅰ期</td> <td>19人</td> <td>19人</td> <td>19人</td> </tr> </tbody> </table>		応募者数	合格者数	入学予定者数	推薦入試	27人	27人	27人	一般入試(前・後期)	6人	6人	6人	合計	33人	33人	33人		応募者数	合格者数	入校(予定)者数	5年度	就農実践研修	26人	16人	15人	就農準備研修Ⅰ期	21人	18人	18人	就農準備研修Ⅱ期	12人	12人	12人	6年度	就農実践研修	10人	8人	7人	就農準備研修Ⅰ期	19人	19人	19人	A	<p>など参加者を限定して実施し、若い人に農業大学校をPRする方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き農業に関心がある県民に広く門戸を開き、初歩的な講座から実践的な講座へ、対象者の意向にあった研修への誘導を行う。</li> <li>アンケート結果等を踏まえて研修内容や研修区分の見直しを随時行っていく。</li> </ul>	
	応募者数	合格者数	入学予定者数																																													
推薦入試	27人	27人	27人																																													
一般入試(前・後期)	6人	6人	6人																																													
合計	33人	33人	33人																																													
	応募者数	合格者数	入校(予定)者数																																													
5年度	就農実践研修	26人	16人	15人																																												
	就農準備研修Ⅰ期	21人	18人	18人																																												
	就農準備研修Ⅱ期	12人	12人	12人																																												
6年度	就農実践研修	10人	8人	7人																																												
	就農準備研修Ⅰ期	19人	19人	19人																																												
	2 学生・研修生のニーズに即した環境整備	<p>●具体的方策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学生・研修生へのアンケートによるニーズの把握</li> <li>教育施設や備品の整備</li> </ol> <p>●評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育施設や備品の整備数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート、個別面談等によるニーズの把握に努めた。</li> <li>教育環境については更新や修繕も含め、今後の学校運営に必要な施設・備品を洗い出し、優先順位をつけて計画的な整備に取り組んだ。</li> </ul> <p>令和5年度整備数</p>	B  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き教育環境に関するアンケート調査等を実施し、学生・研修生の意向に沿った整備内容を盛り込む。</li> <li>国補事業への取組みや予算要求による、施設・備品については引き続き計画的な整備を行う。</li> <li>令和9年度に本校舎の設置から50周年を迎えることから、100周年を見越し</li> </ul>																																											

重点目標	評価項目	具体的方策・評価指標等	経過・実績	評価	次年度の課題と改善策	外部評価委員の意見
			<p>環境制御ハウスの谷換気装置、スピードスプレーヤー、買田農場の園内道の補強 (次年度導入予定：ホイールローダー、高所作業機、スポットクレーン6台)</p>		<p>た抜本的な施設設備や教育内容などの見直しを検討する。</p>	
<p>II 教育内容の充実・強化と実践力の養成</p>	<p>1 カリキュラムの検討と教育内容の充実</p>	<p>●具体的方策 1 ニーズに応じたカリキュラムの編成 ・学生及び研修生のニーズや、就職先から求められる資質の把握 ・ニーズや今日的課題に対応したカリキュラムの見直しと新規教科の導入 ・農業高校以外からの入学者、非農家出身者等にも配慮した授業の実施 ・栽培管理から農業機械、経営管理に至る幅広い知識・技能の修得促進</p> <p>2 指導教官の資質向上 ・各種研修会や研究活動への積極的な参加 ・最新の教育事情、学生指導、危機管理等に関する研修や情報交換等の実施</p> <p>●評価指標 ・カリキュラムの見直しと新規教科の導入数 ・指導職員の研修参加延べ人数</p>	<p>・入学希望者の専攻コース希望状況や今日的課題の動向等を勘案し、6年度から実施されるコース再編を含めた校内の体制について引き続き検討を進めた。 ・新規科目や就農を喚起するための科目に加え、一般教養及び基礎教育科目についてアンケート調査を実施した。 ・「林業・造園概論」(1単位)「農福連携」(1単位)を新たに設け、「生物工学概論」を「遺伝子資源活用概論」(1単位)に拡充した。 ・2年生は卒論の課題設定から調査、分析、取りまとめ、発表まで、自主的な取組みを促した。 ・1年生を対象に卒論計画発表会を実施し、早めの卒論への取組みや卒論に関係する知識・技能の習得意欲の醸成を図った。</p> <p>・コロナ明けで、農大の職員を対象にした全国及びブロック別研修会・研究会等が再開され、積極的な参加を促した。 ・果樹については、西日本ブロック研修会の当番校となり、中四国ブロックの果樹担当の農大職員との意見交換及び交流が図ることができた。 ・オンラインで開催された指導力強化研修(高度農業経営者育成教育機関が実施)には、担い手養成科担当職員及び研修科担当職員が受講した。</p> <p>新規教科：3 「林業・造園概論」「農福連携」「遺伝子資源活用概論」 研修参加延べ人数 7名</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・近隣の農業大学の職員との意見交換や先進的な取組みを参考にし、カリキュラム編成やコース再編について積極的な取組みを進める。 ・令和9年度に50周年を迎えることを踏まえ、100周年を見越した抜本的な施設設備や教育内容などの見直しを検討する。 ・農業法人、農業関連企業等からの聞き取りを行い、学生が身に着けるべき資質の向上に取り組む。 ・アンケート結果等を踏まえ、より満足度の高い授業や実習となるよう、コースや部門別の打合せ機会を増やし教育内容の充実を図る。 ・農業大学で認証取得に取り組んでいるGAPについて、次年度は科目としてカリキュラムに取り入れるほか、スマート農業や有機農業、輸出など今日的な課題に対応するため、機械メーカーや先進農家の協力を得ながら、時流に対応した教育内容を取り入れる。</p> <p>・中四ブロックや西日本ブロック、全国規模の農大職員対象の研修会・研究会に加え、最新の農業技術や経営管理に関する研修会に参加するなど、積極的な自己研鑽を促進する。</p>	<p>・授業にICTを活用した取組みができれば、学生が授業に参加しやすく、意見も出しやすくなるのではないかと。</p>



重点目標	評価項目	具体的方策・評価指標等	経過・実績	評価	次年度の課題と改善策	外部評価委員の意見
Ⅲ 進路指導の充実と就業意欲の醸成	1 進路決定の指導・支援	<p>具体的方策</p> <p>1 個別の進路相談の実施と積極的な情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三者面談や学生との個別指導による就職活動状況の把握と進路指導の強化</li> <li>関係機関との連携強化による求人情報の把握</li> </ul> <p>2 授業や面談を通じた進路に対する早期動機付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修学期間を通じた総合的な進路決定支援</li> <li>キャリア教育の内容強化や「就農就業ガイダンス」等の実施</li> <li>インターンシップや会社説明会への積極的な参加の働きかけ</li> </ul> <p>●評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路決定率</li> <li>インターンシップ実施人数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月下旬及び2月下旬の2回、1年生全員の三者面談を実施し、希望する進路に関する情報共有を図った。</li> <li>ハローワークやワークサポート香川との連携により求人情報の提供等を実施した。</li> <li>保護者を対象とした法人見学会を後援会と共催で7月と8月に1回ずつ計2回開催し、農業法人等6カ所を見学した。このうち8月に実施した法人見学会は、オープンキャンパスを兼ねて実施し、4名の学生が参加した。</li> <li>ハローワークによる求人情報の提供や履歴書の書き方、就職活動の心得等について指導を受けたほか、ハローワークやワークサポート香川の対面及びオンラインによる個別相談や模擬面接等の指導を受けた。</li> <li>学生個々の希望や適性に応じて、インターンシップや会社説明会への積極的な参加を勧めた。</li> <li>「就農・就業ガイダンス」（1、2年生対象）を実施し、雇用就農や将来自立経営するにあたっての心構え等について学んだほか、6月に2回、2月に2回、計4回、校内企業説明会を実施し、経営者や人事担当者から直接話を聞く機会を設けることで、進路決定を促した。</li> <li>就業への意識を早い時期から高めるため、1年生を対象とした「キャリアプラン」の授業にキャリアコンサルタントを講師に招き、働くことへの動機付けからキャリアプラン作成支援まで、体系的な指導を行うとともに、目標設定を趣旨とした公開講座を開催し、人生設計を考える機会を提供した。</li> </ul> <p>進路決定率 93.7% (卒業生 32名のうち 30名 インターンシップ実施人数 18名 (延べ人数 23名))</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>三者面談や個別指導を通じて進路希望を把握する</li> <li>2年生になってからの面談を実施し、新年度からの就職活動の後押しを行う。</li> <li>新規就農相談センター、JA香川県(アグリワーク)等関係機関との連携を強化し、求人情報の収集と学生への提供に努める。</li> <li>法人就農等への理解を深めるため、保護者を対象とした法人見学会を引き続き開催する。</li> <li>就職意欲の低い学生への働きかけや選択に迷っている学生への決断をサポートし、1年次終了時までには、各学生が進路の方向性を決められるよう促していく。</li> </ul>	
	2 就農支援	<p>具体的方策</p> <p>1 就農を支援する施策の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就農を目指す学生・研修生に対し、各種給付金の事務手続き支援</li> <li>就農に向けての各種支援施策等の情報提供と活用支援</li> </ul> <p>2 就農意欲の向上対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップや会社説明会等を活用した雇用就農の支援</li> <li>県内外の優れた農業者による講</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月11日に就農準備資金説明会を、また2月2日に税務申告説明会を開催し、手続き等を支援した。</li> <li>学生1名、研修生4名が受給中。</li> <li>JA香川県就農奨学金を、学生1名が受給。</li> <li>独立自営就農を目指す学生・研修生には、早期に普及センターや市町に相談に行くよう進め、就農に当たっての具体的な準備等指導を受け、円滑な就農に繋がるよう働きかけた。</li> <li>雇用就農後のミスマッチを防ぐため、応募を希望する農業法人等にインターンシップを経験するよう勧めた。</li> <li>インターンシップを実施した2年生10名のうち5名がイ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業及び研修終了後の着実な就農・定着に向けて在学中から切れ目なく支援できるように、年度の早い時期から農業改良普及センター等関係機関とより強力な支援体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路の関係で就職後の状況も教えて欲しい。</li> <li>就職が決まってもすぐにやめてしまう人もいるため、行ってよかったという企業を紹介することも大切ではないか。</li> </ul>
				A	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ制度の利用者を増やし、農業経営者協議会、新規就農相談センター、関係団体と連携して、学</li> </ul>	

重点目標	評価項目	具体的方策・評価指標等	経過・実績	評価	次年度の課題と改善策	外部評価委員の意見
		<p>話を通じた就農意欲の向上</p> <p>3 就農相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営農計画の作成支援や関係機関と連携した就農支援活動の実施</li> <li>・関係機関（普及センター、農業試験場、農業会議、農地機構等）と連携した就農後の定着に向けた切れ目ない支援</li> </ul> <p>●評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農を支援する事業の活用者数とその進路</li> <li>・就農者数</li> </ul>	<p>ンターンシップ先である農業法人等へ就職した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合同会社説明会（4回）や法人見学会、現地研修等、先進農家から直接話を聞く機会を増やした。</li> <li>・卒業・修了後に円滑に就農できるよう普及センターや農地機構と連携・情報共有を図った。</li> </ul> <p>就農準備資金活用者数及び進路</p> <p><u>担い手養成科2年生1名(親元就農希望)</u></p> <p><u>技術研修科研修生 4名(独立就農2、雇用就農2名)</u></p> <p><u>就農者数(担い手養成科)</u></p> <p><u>自営就農1名、雇用就農11名(38%)</u></p> <p><u>就農者数(技術研修科就農実践コース)</u></p> <p><u>自営就農11名、雇用就農2名、研修継続1名(93%)</u></p>	B	<p>生・研修生と農業法人とのマッチングを円滑に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の「就農・就業ガイダンス」の授業として実施したインターンシップは、学生の意欲に差があるため、自分の専攻コース以外の受入れ先での実施や学生の意欲に応じた対応を継続していく。</li> <li>・法人への雇用就農や将来的に独立を希望する学生についても、在学中から各普及センターや新規就農相談センター等との接点を持てるよう、機会の設定を検討する。</li> <li>・雇用就農を希望する研修生については、校内企業説明会に参加できるよう柔軟な対応を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生だけでなく、研修生の就職先リストの作成をお願いしたい。</li> </ul>
	3 就職支援	<p>●具体的方策</p> <p>1 就職活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職説明会への参加促進による就職意欲の醸成</li> <li>・ハローワーク、ワークサポートかがわとの連携による就職支援</li> </ul> <p>2 就職試験対応の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬面接の実施や履歴書・エントリーシートへの書き方指導</li> <li>・就職活動に関する専門家の招致による授業と個別指導の実施</li> </ul> <p>●評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職情報の提供数</li> <li>・就職者数(就農以外)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人情報コーナーを常設し、学生の希望とマッチする情報は各教授を通じて直接学生へ提供した。</li> <li>・求人票を持参して訪問する企業担当者に対しては、できるだけ企業が求める人材や条件を聞き取りし、必要に応じて情報を学生に伝え、進路決定の判断材料を提供した。</li> <li>・就農・就業ガイダンスの時間を利用して、2年生全員のハローワークの個別面談を行い、農業関係以外に就職を希望する学生のサポートを受けた。</li> <li>・具体的な就職先を探している学生を中心にワークサポートかがわの対面での相談会を実施し、就職活動に弾みをつけた。</li> <li>・学生の希望に応じてオンラインによる個別相談や模擬面接の活用を支援した。</li> <li>・エントリーシートや履歴書の書き方、面接試験への対応等について個別対応した。</li> </ul> <p>就職情報提供数 79 社</p> <p>就職者数 17 人 (53%)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料職業紹介所の機能が発揮できるよう、農業関連企業を中心に農業大学校への求人を積極的に呼びかける。</li> <li>・就農及び農業関連企業・団体以外の就職を希望する学生に対しては、よりハローワークやワークサポートかがわと連携し、学生の志望する企業の情報提供及び支援を要請する。</li> <li>・就職試験対策等のノウハウを持つ機関の協力を得ながら、学生の個性や希望に合ったきめ細かな支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月から就職活動が始まる中で、春休みの間に就職への意識づけを図るため、企業が多数出展しているかがわワークフェアに積極的に参加したらどうか。</li> </ul>